

2022(令和 4)年度

学校自己評価の報告書

学校法人 大阪明星学園
明星高等学校 ・ 中学校

令和4年(2022年)度 大阪明星学園における学校評価についての報告

学校教育法施行規則に則り、学校評価を実施しました。学校評価の目的については、文部科学省「ガイドライン」に従い、

- ① 学校が運営目標を設定し、達成状況を把握・整理し取り組みの適切さを検証することにより、学校運営を組織的・継続的に改善すること。
- ② 学校が評価の実施とその結果を説明・公表することにより、保護者、地域住民の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件設備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

の三点とし、教職員による自己評価、保護者・生徒による評価を、以下の通り実施しました。

- ① 教職員による自己評価(アンケート方式)
評価対象期間 令和4年度 (1年間)
評価実施時期 令和5年1月30日～2月9日
評価項目 「私学の特徴」「教育活動」「学校運営」「施設安全」「全体評価」の分類で、28項目により評価しました。
- ② 保護者による評価(アンケート形式)
評価対象期間 令和4年度 (1年間)
評価実施時期 高3 令和4年12月 2日～12月13日
高2～中1 令和5年 1月30日～ 2月14日
評価項目 「私学の特徴」「教育活動」「学校運営」「施設安全」「全体評価」の分類で、28項目により評価しました。
- ③ 生徒による評価(アンケート形式)
評価対象期間 令和4年度 (1年間)
評価実施時期 高3 令和4年12月 3日
高2～中1 令和5年 1月30日
評価項目 「私学の特徴」「教育活動」「学校運営」「施設安全」「全体評価」の分類で、28項目により評価しました。

平成28年度実施分より、外部業者(株式会社 ブレインアカデミー)に、データの集計・処理・分析を委託し、令和5年3月に集計結果および分析が戻ってきました。保護者アンケートと教職員アンケートは、スマートフォンやタブレット等WEBでの回答方式としています。生徒の回答はマークシート(紙)としています。生徒の回答率は、高校3年生が76.0%で少し低い数字でしたが、高校3年生以外の高校生・中学生は回答率が80%後半から90%前半となっており、コロナ禍ではありましたがある程度の回答率を得ることができました。高校3年生の回答率が低かったのは、受験前でコロナ感染を予防する意味で出席を見合わせていた生徒が一定数いたことが原因と考えられます。保護者アンケートは、高校で89.1%、中学で95.0%と高い回答率を得ることができました。次年度は生徒もWEBでの回答に変更したいと考えています。

また、令和4年度も新型コロナウイルス感染は終息せず、コロナ禍での新年度開始となりました。令和3年度と比べると休校や行事の中止・延期などは減りましたが、学校行事は感染対策を徹底しながら縮小した形で行いました。入学式は、密を避けるため中学と高校を分けて実施しました。きるだけ行事を行うという方針の下、学園祭・体育大会・高2研修旅行・中2研修旅行は感染対策を講じて実施することにしました。また、夏休みの海外研修制度もようやく実施することができました。中3の3学期に行うターム留学も実施し、60名を超える生徒が参加しました。このような令和4年度の学校活動の中、とくに学校行事の満足度ポイントの平均は、保護者・生徒とも上昇しました。

全28問中16問において、教員の評価が3者の中で最も低い評価となっています。昨年も同じ傾向がありま

した。以上のことから、教員が考えるよりも保護者・生徒は学校について評価をしてくれている項目が多いと思われる。

保護者への入学推奨度の質問では、「入学を勧める」の比率が昨年度より0.7%下がり67.8%でした。一方、「入学を勧めない」の比率は昨年度より0.6%下がり5.3%でした。「入学を勧めない」の比率が下がったことは評価できますが、「入学を勧める」の比率が少しではありますが下がったことは1つの課題として捉えていきたいと考えています。「入学を勧める」の比率が上がるように評価結果全体を教科、学年、各部においてそれぞれの立場でまとめ、共通認識としてしっかりと受け止め、本学園生徒がより良い環境で教育活動を享受できるように学校運営の改善の方向性を確認し、その改善に努力してまいりたいと考えております。

以下、(1) 令和4年度学校評価報告

(2) 保護者による評価、生徒による評価、教職員による自己評価のアンケートの雛形を添付いたします。

令和4年(2022年)度 学校評価自己評価

1. めざす学校像

大阪明星学園明星中学校・高等学校の建学の精神

- ・キリスト教の教えに基づいた教育を行う学校として、キリストが人びとに示した理想的な人間像を、生徒の一人一人の中に実現すること。
- ・マリアニスト教育の目標に沿った教育
 - ① 信仰心を育てる教育
 - ② 全人教育を施す質の高い教育
 - ③ 「家庭の精神」を基盤とする教育
 - ④ 奉仕、正義、平和を目指す教育
 - ⑤ 時代の変化に適応できる(時のしるしを読む)教育

大阪明星学園が育てようとする生徒像

- ・「よき明星紳士たれ」
豊かな教養と深い人間性を備え、社会に奉仕する「明星紳士」を育成する。
- ・「地の塩 世の光」
生徒が理想社会の実現のために、社会のあらゆる分野でその核となって指導的な活動をなし、他者のために働きえるような人材となるよう指導する。
- ・明星プロフィール
「心」 (永遠なるものを敬う心・自己の弱さを認める謙虚な心・他者を寛く受け入れる心・自然を愛し、生命を尊ぶ心)
「社会とともに」 (知的推進力・コミュニケーション・異文化理解・奉仕の精神・使命感)

2. 中期目標

基本方針(2018年度～2022年度)

「明星の生徒ひとりひとりが輝くために」魅力ある学園づくりをする。

- 1) 入試制度及びクラス編成の見直し
- 2) 新学習指導要領へ向けたカリキュラムの構築
- 3) グローバル教育の充実
- 4) リベラルスタディーズの充実

これらを柱として、改革を進める。

1. 高い学力の育成

○高度な授業

教員の専門的知識および授業スキルの向上を図るため授業改善を進める。

2. 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

○生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討する。

○生徒の自立・自律を進めるような方策を検討する。

○生徒の進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

I 建学の精神と教育理念との関連

(1) 明星の生徒（明星紳士の中身）が目指す人間像の深化

明星の生徒は一人一人がクリスチャン・センスを身につけ、卒業し社会に出た暁には社会の変革に寄与することが出来るようにする。すなわち、確かなリーダーシップを発揮しながら、社会に奉仕することができるような人間を育てる。

(2) 建学の精神とグローバル教育

次世代を担う人材となるために、120年に及ぶ伝統を活かし、新時代にも適した教育実践を果たす。

II 教育の内容と学習支援の充実

(1) 学力向上の取り組み

- ① 次期学習指導要領を見据え、新たな大学入試制度に対応できるカリキュラムの編成。
- ② キャリアガイダンスを通じて自分の人生を具体的にデザインしていく。
- ③ 自学自習を習慣づけることで主体的に学ぶ力を身につけさせる。
- ④ 長期欠席者への学習機会の提供。

(2) 授業内容の充実のための取り組み

- ① 教員の資質向上を図る。
- ② 各教室のプロジェクターや ICT 教室・ラーニングコモンズを積極的に利用し、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実戦を図る。

(3) 生徒の人権意識を促すための取り組み

- ① 人権に対する正しい理解と認識を培う。
- ② 生徒の宗教心を養い育てる。

(4) 生徒の生活全般に対する取り組み

- ① 社会的なマナーや礼儀など、他者とのコミュニケーションに必要な基本的なものを常に意識させる。
- ② 生徒の自主的活動の活性化。

(5) グローバル化への取り組み

- ① 成長段階に応じた語学研修を実施し、英語を身近なものに感じさせ、グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成する。
- ② 他者との交流に必要な自分の意見の構築を促す一方で、広い視野を持つようさまざまな機会を提供する。

(6) 情操教育への取り組み

宗教教育を通じて人を大切に敬う心を育てる。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>I(1) 明星の生徒が目指す人間像の深化</p>	<p>明星の生徒は一人一人がクリスチャン・センスを身につけ、卒業し社会に出た暁には社会の変革に寄与することが出来るようにする。すなわち、確かなリーダーシップを発揮しながら、社会に奉仕することができるような人間を育てる。</p>	<p>■クリスチャン・センスを身につける。 建学の精神について始業式・終業式および全校朝礼における学校長講話や宗教講話等で生徒に意識付けをしていく。毎朝のSHR時に心を1つにして主の祈りを唱え祈る心を育てる。</p> <p>■リーダーシップを身につける。 生徒会が中心となり各種学校行事に生徒一人一人が積極的に参加していく。</p> <p>■次世代リーダー養成プログラムを通じてリーダーになることの心構えや意識付けをしていく。</p> <p>■社会問題に関心をもち奉仕の精神を涵養する。 人権教育や小鳩会の活動を通じて他者の人権に配慮できる人間になる。また、社会問題に関心をもち奉仕の精神を涵養する。</p>	<p>【学校評価アンケート】 設問1 保護者 1.4 生徒 1.4 教員 1.3 設問2 保護者 1.4 生徒 1.5 教員 0.9 設問9 保護者 1.2 生徒 1.5 教員 1.0 設問17 保護者 0.8 生徒 0.8 教員 0.4 (保護者・生徒・教職員へのアンケートは文言に若干の違いはあるが、すべて同一内容になっている)</p> <p>【学校評価アンケート】 設問20 保護者 0.9 生徒 1.1 教員 0.6</p> <p>【学校評価アンケート】 設問9 保護者 1.2 生徒 1.5 教員 1.0 設問17 保護者 0.8 生徒 0.8 教員 0.4</p>	<p>■昨年度に引き続きコロナ禍の中ではありましたが、学校長の講話や宗教科を中心にした宗教講話で話をしています。また、毎朝「主の祈り」を唱えてきました。しかしながら、各設問の評価は昨年より少し下がりました。今後、学校長の講話や宗教講話だけでなく教職員全員で伝えていきたいと思います。</p> <p>■中学校生徒会・高校生徒会が協力し、自主的な活動を行いました。とくに学園祭では、コロナ感染対策を第一に生徒会と実行委員会が中心となって計画・運営を行い、多くの生徒で話し合い協力しながら成功させました。その結果、昨年より高い評価を得ることができました。</p> <p>■コロナ禍により次世代リーダー養成プログラムは中止となりました。</p> <p>■今年の人権HRは年5回実施しました。人権推進委員会で毎回各学年の内容を検討し実施しています。生徒の評価は昨年より少し低くなりました。プリントを用いた座学が中心ですが、ヤングケアラー問題など今起こっている事を取り上げた学年もありました。小鳩会の活動については直接炊き出しやボランティアに参加したりしました。今後も、座学だけでなく自ら体験できる機会も増やして</p>

				活動をしていきたいです。
I(2) 建学の精神とグローバル教育	次世を担う人材となるために、125年に及ぶ伝統を活かし、新時代にも適した教育実践を果たす。	<p>■ICTを活用した教育を促進する。</p> <p>■英語教育・留学制度の充実を図る。 アクティブイングリッシュ イングリッシュキャンプ 英語発信力養成講座 次世代リーダー養成プログラム ターム留学・セメスター留学(カナダ・ニュージーランド) 海外短期留学(カナダ)</p>	<p>【学校評価アンケート】 設問5 保護者 0.4 生徒 0.6 教員 1.2 設問26 保護者 1.4 生徒 1.1 教員 0.5</p>	<p>■生徒・教員ともに一人一台タブレットを持っています。授業やホームルーム等様々な教育活動でタブレットを活用しており、リモート授業にも対応できるよう通信機器の整備も行いました。</p> <p>■グローバル教育推進委員会を中心にさまざまな企画を立てています。今年から海外への留学行事が一部を除いて実施できました。 中学3年生のターム留学(3ヵ月)では約60名の生徒が参加しました。また、新しくセメスター留学(6ヵ月)も始め、約10名の生徒が参加しました。</p>
II(1) 学力向上の取り組み	<p>①次期学習指導要領を見据え、新たな大学入試制度に対応できるカリキュラムの編成。</p> <p>②学習ポートフォリオを通じて自分の人生を具体的にデザインしていく。</p>	<p>■大学入試の英語の4技能の対策として、中1・中2でネイティブ講師による英会話授業、中3でインターネットを使ったオンライン英会話、高I・高IIでは外国人の講師と本校教員のチームティーチング行う。</p> <p>■カリキュラムマネジメント委員会を中心に、新指導要領に対するカリキュラムの検討。</p> <p>■合格者座談会、医学部進学ガイダンス、海外大学進学ガイダンス、大学の出張講義、高2・高1には主要大学の入説明会、高1には夢ナビライブの参加と大学オープンキャンパス参加の義務づけなど、進路探究に取り組ませる。</p>	<p>【学校評価アンケート】 設問3 保護者 1.1 生徒 1.2 教員 0.6 設問15 保護者 0.8 生徒 1.5 教員 0.8 設問16 保護者 0.7 生徒 1.1 教員 1.0</p>	<p>■英語4技能のうち、聞く・話すについては外部講師を導入し英語のコミュニケーション能力が上昇し、海外への短期留学や長期留学の関心が高くなり希望者も年々増加しています。</p> <p>■中学では、高い技能・知識だけを求めるのではなく、新指導要領に沿った自分で課題を見つけ考え解決できる生徒を育成するコース「S特進コース」を1クラス募集しました。約30名の生徒がS特進コースで学んでいます。また、他のコースの生徒にも自主的に学び探究する力の育成のため、図書館のラーニングコモンズや多目的ホールやICT教室を使用し、グループ学習など探究学習を行っています。</p> <p>■進路指導部が中心となって各学年に様々な取り組みを行っています。オンライン実施はなく、すべて対面で実施することができました。</p>

	<p>③自学自習を習慣づけることで主体的に学ぶ力を身につけさせる。</p> <p>④長期欠席者への学習機会の提供</p>	<p>■自習室の活用・自習会の実施。</p> <p>■外部講師による講座開催</p> <p>■サポートルームの充実とスクールカウンセリングによるサポートの充実。</p>	<p>【学校評価アンケート】</p> <p>設問 6 保護者 0.8 生徒 1.0 教員 0.9</p> <p>設問 7 保護者 0.8 生徒 1.1 教員 1.1</p> <p>【学校評価アンケート】</p> <p>設問 1 0 保護者 1.0 生徒 1,1 教員 1.0</p> <p>設問 1 4 保護者 1.0 生徒 1.1 教員 1.2</p> <p>設問 2 1 保護者 1.1 生徒 1.3 教員 0.9</p>	<p>■自習室は、高3に1教室と各ホームルーム教室、高2～中1に1教室を割り当てています。ともに平日は20時まで、土曜日は17時まで開室しています。最近、高2の生徒もホームルーム教室で自習している生徒が多いようです。1つの教室に集まるより、パーソナルスペースが大きく取れるホームルーム教室の方が自習しやすいようです。</p> <p>今年、例年通り夏期講習は実施し、高1は勉強合宿も再開しました。</p> <p>■希望者には、放課後に外部講師を招き、小論文対策講座、英検対策講座や生徒一人一人に対応した演習型個別指導講座を開催しています。</p> <p>■様々な理由で朝から登校できない、教室に入れない生徒に対しサポートルームを開設しています。また希望する生徒・保護者に向けて週に2日スクールカウンセラーが常駐しています。生徒の利用者はそれほど多くはないですが、保護者の利用者は年々多くなっています。</p>
<p>Ⅱ(2) 授業内容の充実のための取り組み</p>	<p>①教員の資質向上を図る。</p>	<p>■校内での研究授業を促進し、教員間の意見交換を活発にし、全教員の授業力を高めていく。</p> <p>■教員の研修出張報告の義務化と情報共有の強化。</p> <p>■授業アンケートの実施</p>	<p>【学校評価アンケート】</p> <p>設問 5 保護者 0.4 生徒 0.8 教員 1.2</p> <p>設問 6 保護者 0.8 生徒 1.0 教員 0.9</p> <p>設問 7 保護者 0.8 生徒 1.1 教員 1.1</p> <p>設問 8 保護者 1.2 生徒 1.3 教員 1.5</p> <p>設問 1 4 保護者 1.0 生徒 1.1 教員 1.2</p> <p>設問 1 5 保護者 0.8 生徒 1.5 教員 0.8</p>	<p>■研究授業は、各教科で、教育実習期間を中心に行っています。</p> <p>また、外部の研修に参加した教員には報告書を提出してもらい、教職員誰でも閲覧できるよう、職員室に保管しています。</p> <p>■例年通り、7月と2月（高3は12月）に生徒による授業アンケートを実施しました。教員各自の授業について生徒の率直な感想・問題点を知ることにより授業改善につなげていきたいと考えています。</p>

	<p>②各教室のプロジェクトーやICT教室・ラーニングコモンズ・多目的ホールを積極的に利用し、主体的・対話的で深い学びの実践を図る。</p>	<p>■教員一人一人にタブレット・ノートパソコンを貸与し、生徒の出欠状況、成績等の管理に活用し、授業でICTを積極的に利用する。</p> <p>■図書館のラーニングコモンズと多目的ホール等を使用し、生徒がグループワークを行い主体的・対話的で深い学びができるようにする。</p>	<p><u>設問 1 6</u> 保護者 0.7 生徒 1.1 教員 1.0</p> <p><u>設問 2 1</u> 保護者 1.1 生徒 1.3 教員 0.9</p> <p>【学校評価アンケート】</p> <p><u>設問 5</u> 保護者 0.4 生徒 0.6 教員 1.2</p> <p><u>設問 2 6</u> 保護者 1.4 生徒 1.1 教員 0.5</p>	<p>■タブレットだけではなく、教員用のノートパソコンも使い、生徒の出欠管理や教員同士の情報伝達にも活用しています。Classi やロイロノートを使い、担任・学年から生徒・保護者への連絡や、保護者からの欠席連絡もしてもらっています。また、授業のプリントを生徒のタブレットに直接配信・回収することができ、ペーパーレスに繋がっています。</p> <p>■中学生を中心にラーニングコモンズを利用した授業が行われていますが、高校生の利用も増えてきています。しかし、実施している授業は特定の教科で、他の教科も取り組むよう授業方法等の改善が必要です。また、ICT教室を利用し、中学生の希望者にプログラミング講座を行っています。</p>
<p>Ⅱ(3) 生徒の人権意識を促すための取り組み</p>	<p>①人権に対する正しい理解と認識を培う</p> <p>②生徒の宗教心を養い育てる。</p>	<p>■年間5回の人権ホームルームを実施し、いじめを含めた人権侵害に敏感になるよう教育する。</p> <p>■人権教育映画鑑賞</p> <p>■宗教科によるキリスト教に関連した講話、またその他の講話や講演会を通して、虐げられた人に思いを寄せるような感受性を育てていく。</p>	<p>【学校評価アンケート】</p> <p><u>設問 9</u> 保護者 1.2 生徒 1.5 教員 1.0</p> <p>【学校評価アンケート】</p> <p><u>設問 1</u> 保護者 1.4 生徒 1.4 教員 1.3</p> <p><u>設問 2</u></p>	<p>■人権ホームルームを年5回実施しました。およそ週1回の割合で開かれる人権推進委員会で毎回各学年の人権ホームルームの内容を検討し実施しています。今年の評価は昨年より少し下がりましたが、全項目の中では例年通りの高い評価を得ています。プリントを用いた座学が中心ですが、コロナ差別やヤングケアラー問題など今起っている事を取り上げた学年もありました。</p> <p>■映画も各学年で検討、学年の意向に合わせたものが選ばれ上映しました。(本校の講堂で上映)</p> <p>■建学の精神や宗教教育、小鳩会活動の中でもとくに宗教教育の評価は高く出ています。今後も、さまざまな機会を通じて生徒に他者への奉仕を意識付けさせ、ボランティア活動など</p>

			<p>保護者 1.4 生徒 1.5 教員 0.9 <u>設問 1.7</u> 保護者 0.8 生徒 0.8 教員 0.4</p>	<p>積極的に参加するよう促していきたいと思います。我が事のように考えていない生徒を少しでも減らしていきたいです。</p>
<p>Ⅱ(4) 生徒の生活全般に対する取り組み</p>	<p>①社会的なマナーや礼儀など、他者とのコミュニケーションに必要な基本的なものを常に意識させる。</p> <p>②生徒の自主的活動の活性化</p>	<p>■公共の場でのマナー、常識を身につけさせる。 遅刻指導、下校指導、校内指導など、目についた時にその都度指導する。</p> <p>■SNSの扱いに注意を促し、携帯電話・スマートフォンの学校への持ち込みについてルール厳守を徹底する。</p> <p>■クラブ活動や生徒会活動の充実</p>	<p>【学校評価アンケート】 <u>設問 1.1</u> 保護者 0.9 生徒 0.1 教員 0.2 <u>設問 1.2</u> 保護者 1.2 生徒 1.2 教員 0.4 <u>設問 1.3</u> 保護者 1.2 生徒 1.0 教員 0.7</p> <p>【学校評価アンケート】 <u>設問 1.8</u> 保護者 1.0 生徒 0.9 教員 0.0 <u>設問 1.9</u> 保護者 1.0 生徒 1.9 教員 1.1</p>	<p>■交通機関でのマナーや通学路における登下校時のマナーや遅刻については生活指導部から直接、あるいは担任を通して生徒に呼びかけています。また、生徒会からも自主的に呼びかけを行っていますが、なかなか改善はされず年間何件もの苦情が届いています。11 生活指導 12 規範意識の設問では、昨年に比べ生徒の評価が少し下がりました。生徒達は、規範意識はあるものの、生活指導には満足していないものと思われる。根気よく言い続け注意を促していくのと同時に明星の生活指導の在り方についても検討が必要と考えています。</p> <p>■2018年6月に起きた大阪北部地震以後、緊急時の対応として登下校時に携帯電話・スマートフォンの所持を認めています。ただし、緊急時以外は使用禁止、登校したらすぐに電源を切り校内での使用禁止等ルールを守るよう指導しています。保護者からは賛否両論がありますが、概ね理解していただいています。しかし、SNSをめぐるトラブルは多く発生しており、使う者のモラルを育成するため注意・指導をおこなっています。</p> <p>■例年通りの活動はできませんでしたが、生徒会・クラブ活動の評価では、生徒からはクラブ活動の評価で昨年より高い評価を得ました。保護者からは生徒会・クラブ活動ともに昨年より高い評価を得ました。コロナの影響がまだありましたが、昨年と比べ充実した活動ができ、評価されたものと思われます。</p>

<p>Ⅱ(5) グ ロ ー バ ル 化 へ の 取 り 組 み</p>	<p>①成長段階に応じた語学研修を実施し、英語を身近なものに感じさせグローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成する。 ②他者との交流に必要な自分の意見の構築を促す一方で、広い視野を持つようさまざまな機会を提供する。</p>	<p>■コミュニケーションを重視した英語教育 アクティブイングリッシュ イングリッシュキャンプ 英語発信力養成講座 次世代リーダー養成プログラム ターム留学・セメスター留学 (カナダ・ニュージーランド) 海外短期留学(カナダ) GTEC・英語検定試験</p>		<p>■グローバル教育推進委員会を中心にさまざまな企画を立てています。たとえば中3で生徒が1人1台パソコンを使い、英会話のオンラインレッスンの実施。高2・高1では、外国人の講師と本校教員のチームティーチングを行っています。 留学制度は目的・場所・期間に応じたプログラムも増えてきていて、希望者も年々増加しています。今年度は中3のターム留学で約60名、セメスター留学で約10名の生徒が参加し、カナダ・アメリカで3ヵ月または6ヵ月過ごしました。他の留学プログラムも一部を除き実施しました。来年度は、全面実施に向けて取り組みと同時にプログラムの新設もしていきたいと考えています。</p>
<p>Ⅱ(6) 情 操 教 育 へ の 取 り 組 み</p>	<p>宗教教育を通じて人を大切に敬う心を育てる。</p>	<p>■宗教教育を通じて人を敬う心を育てる。</p>	<p>【学校評価アンケート】 設問1 保護者 1.4 生徒 1.4 教員 1.3 設問2 保護者 1.4 生徒 1.5 教員 0.9 設問17 保護者 0.8 生徒 0.8 教員 0.4</p>	<p>■1 建学の精神、2 神の愛命の大切さは保護者・生徒ともに昨年同様全体的に高い評価を得ています。生徒の評価は少し下がりましたが、保護者の評価は昨年より上がりました。これは、保護者会など対面で実施できる機会が増えたことで、保護者に直接、講話等ができたことが要因として考えられます。今後も対面での実施を増やし、保護者に直接語りかけていきたいです。17 小鳩会活動は、昨年より保護者の評価が上がりました。保護者会の折に、小鳩会の募金活動にご協力、ご理解頂いたことが評価に繋がったものと考えられます。今後はとくに生徒に、授業や学校行事、宗教部の活動を通じて建学の精神を浸透させ、人を敬う心を育てていきたいと考えています。</p>

【 生 徒 】 アンケート質問文

1	学校は、カトリックの理念・建学の精神について、理解に努めている。
2	学校は、宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供している。
3	学校は、学校や学級の目標についてはっきり示している。
4	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保している。
5	学校の授業で知的好奇心が刺激されている。
6	教員は、自分自身の学習に適切な課題を与えてくれる。
7	教員は、学習習慣が身に付くような指導をしてくれる。
8	教員は、学力や努力を公正に評価してくれる。
9	学校は、自分自身に人権について考える機会を十分に提供している。
10	学校は、カウンセリングや不登校への支援などの体制が整っており安心できる。
11	学校の生活指導の方針に共感できる。
12	学校は、自分自身に規範意識が身につくよう指導してくれる。
13	学校は、規則正しい生活リズムが身に付くよう指導してくれる。
14	学校は、自分自身の悩みや相談に親身に応じてくれる。
15	学校は、進路に関する指導を十分に行っている。
16	授業や課外学習などの学校の学習は、希望する進路(大学受験)に対応できている。
17	小鳩会活動によって国内外の人々と支えあって生きる必要性に気づくことができた。
18	生徒会活動はさかに行われている。
19	クラブ活動はさかに行われている。
20	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。
21	学校は、ご両親の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。
22	必要な情報がプリントやClassiなどを通じて適切に家庭に伝達されている。
23	ホームページには必要な情報が掲載されており、有効に活用できる。
24	保護者会で得た情報がご両親の役に立っていると感じる。
25	学校は、いつも清掃され、清潔である。
26	学校の施設や設備はよく整備されている。
27	学校は、安全や健康の管理に常に配慮している。
28	緊急情報が確実に知らされる体制が整っており、安心できる。

【 保 護 者 】 アンケート質問文

1	学校は、カトリックの理念・建学の精神について、理解に努めている。
2	学校は、宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供している。
3	学校は、学校や学級の目標についてはっきり示している。
4	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保している。
5	お子様は、授業で知的好奇心が刺激されている。
6	教員は、お子様の学習に適切な課題を与えている。
7	教員は、お子様に学習習慣が身に付くように指導している。
8	教員は、お子様の学力や努力を公正に評価している。
9	学校は、お子様に人権について考える機会を十分に提供している。
10	学校は、カウンセリングや不登校生徒への支援などの体制が整っており安心できる。
11	学校の生活指導の方針に共感できる。
12	学校は、お子様に規範意識が身につくよう指導している。
13	学校は、規則正しい生活リズムが身に付くよう指導している。
14	学校は、お子様からの悩みや相談に親身に応じている。
15	学校は、お子様に対して進路に関する指導を十分に行っている。
16	授業や課外学習などの学校の学習は、希望する進路(大学受験)に対応できている。
17	お子様は、小鳩会活動によって国内外の人々と支えあって生きる必要性に気づいている。
18	生徒会活動はさかんに行われている。
19	クラブ活動はさかんに行われている。
20	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。
21	学校は、保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。
22	必要な情報がプリントやClassiなどを通じて適切に家庭に伝達されている。
23	ホームページには必要な情報が掲載されており、有効に活用できる。
24	保護者会で得た情報は役立っている。
25	学校は、いつも清掃され、清潔である。
26	学校の施設や設備はよく整備されている。
27	学校は、お子様の安全や健康の管理に常に配慮している。
28	緊急情報が確実に知らされる体制が整っており、安心できる。

質問B	保護者のみ 「あなたは、本校への入学を親戚、友人、知人に勧めますか？」
-----	--

【 教 員 】 アンケート質問文

1	自分はカトリックの理念・建学の精神について、理解に努めている。
2	学校は、宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供している。
3	学校は、学校や学級の目標を保護者や生徒にはっきり示している。
4	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保している。
5	自分は、授業で生徒の知的好奇心を刺激するように試みている。
6	自分は、生徒の学習のために適切な課題を与えている。
7	自分は、生徒に学習習慣が身に付くように指導している。
8	自分は、生徒の学力や努力を公正に評価している。
9	学校は、生徒に人権について考える機会を十分に提供している。
10	学校はカウンセリングや不登校生徒への支援などの体制を整えている。
11	学校の生活指導の方針に共感できる。
12	学校は、生徒に規範意識が身につくよう指導している。
13	学校は、生徒に規則正しい生活リズムが身に付くよう指導している。
14	自分は、生徒からの悩みや相談に親身に応じている。
15	自分は、生徒に対して、進路に関する指導を十分に行っている。
16	自分は、授業や課外学習などで、希望する進路(大学受験)に対応できる指導を行っている。
17	生徒は、小鳩会活動によって国内外の人々と支えあって生きる必要性に気づいている。
18	生徒会活動はさかんに行われている。
19	クラブ活動はさかんに行われている。
20	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。
21	学校は、保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。
22	必要な情報がプリントやClassiなどを通じて適切に家庭に伝達されている。
23	ホームページには必要な情報が掲載されており、有効に活用できる。
24	保護者会で提供している情報は役立っている。
25	学校は、いつも清掃され、清潔である。
26	学校の施設や設備はよく整備されている。
27	学校は、生徒の安全や健康の管理に常に配慮している。
28	学校は、緊急情報が確実に知らされる体制を整えている。

①【設問のポイント化】手法

各質問項目の評価は、以下のポイント数による加重平均を活用

「当てはまる」に、	+3点
「やや当てはまる」に、	+1点
「あまり当てはまらない」に	-1点
「当てはまらない」に、	-3点

※全回答数から「わからない」の回答数を省き、加重平均を実施して、ポイントを算出

②【満足度スコア】について

+2以上	大半の回答者が高い評価をした項目
+1以上	2/3以上の回答者が肯定的である評価の高い項目
+0.4~+0.9	半数強の回答者が肯定的である項目
-0.3~+0.3	肯定、否定が拮抗した不満の芽となる要注意項目
-0.9~-0.4	否定的な回答者が多い不満解消を検討すべき項目
-1以下	2/3以上の回答者が否定的な不満の大きい改善を要する項目
-2以下	大半の回答者が低い評価をし、すぐにでも改善を要する項目